TOP INTERVIEW

サプライチェーンの最終工程を担い続ける

女性比率8割、働きやすい職場を実現

㈱広和産業
代表取締役　**<ruby>最住<rt>もずみ</rt></ruby> 悦子さん**

広和産業（中央区小山）が担うのは、「製造サプライチェーンでの最終工程」です。メーカーの工場で生産された製品や輸入品などを受け入れ、外観検査をしたり、包装をしたりして“最終製品”に仕上げ、出荷しています。文具や化粧品、医療用品、工業製品･･･。多種多様な製品をカバーしており、その種類は数千に及ぶそうです。現場の多くを占めるのは女性従業員。同社の場合、全従業員の約８割が女性です。そんな同社を訪ね、最住悦子社長に話を聞きました。

―業務内容を教えてください。

「メーカーや輸入業者から販売前の製品を受け入れ、まずは伝票と数量が合っているかを確認し、目視による検品、外観検査、包装、ラベル貼りといった最終加工を施しています。そしてメーカーの製品倉庫など、指定された場所へと出荷します。品目が膨大ですので、機械的な検査よりも目視検査がメインになります。検査をする中で、パッケージの破損や印刷ミスなど、指定された項目以外のイレギュラーな不適合品も見つけることがあります。人間が検査するからこそ発見できるのです」

―扱っている品目が豊富です。

「身近なものでは、有名メーカーの文具などがあります。その中でも付箋紙は、当社の工場で指定されたサイズにカッティングする工程から担当しています。一方、広く使われているキャラメル包装のみならず、熱を加えることで収縮するフィルムの性質を利用し容器にぴったり収縮する『シュリンク包装』など、お客さんの要望によって、包装方法も変えています」

―多品種に対応するため、工場の生産ラインも工夫しています。

「製品へのラベル貼りなどは機械でやっているものもありますが、そもそも製品自体が多品種であることに加え、量産品もあれば少量品もありますので、生産ラインは固定できません。そのため、当社では移動できる生産整備を導入しており、品目ごとにラインを変えています。生産管理と製造担当者が毎回、どのような配置すれば生産効率化につながるかの知恵を絞っています」

―女性従業員も多数活躍しています。

「現在、パートを含む従業員数は約２００人いますが、その８割は女性です。正社員の女性比率も全社員の３～４割になっています。女性従業員の中には、子育て中の人も多くいますので、お子さんの事情で急に出勤できない日も出てきます。そんな時、職場が休みやすい雰囲気でしたら定着率もアップすると思います。検品や検査などの業務は、男性よりも、コツコツとした作業を飽きずにできる女性の方が向いていると思います。これからも女性が働きやすい職場づくりを進めていきたいと思っています」